

エクストリームウィンターチャレンジ2014 信州高山大会

優勝チームコメント

いや〜んばか〜ん1号 清水 直樹 さん

ぼくたちチームの作戦を振り返ってみようと思います。(表彰式のコメントの繰り返しになりますが。)

高山大会の特徴は競技エリアの大半をスタート地点から見渡せることです。もっとも前半のCP1からCP5までのうち、スタート地点から見えるのは CP1だけです。しかしCP2を除けば、全てが1本の林道上に設置されているので、迷うことはありません。問題はCP2へどこからアクセスするかだけです。地図と実際の地形を見比べれば、CP2はリフト降り場の右上のピークの裏側だということがすぐわかります。そのピークは三角定規のようで、右斜面は垂直の崖状で左斜面が緩やかになっています。ピークの前面直下は林道になっており、競技者は林道をピークの左側から進んでいくことになります。ピークの裏側にあるCP2に行くためには、ピーク手前の緩やかな傾斜を選んで林帯に入ることが楽で安全です。ピーク直下は登るのが大変で危険(でも、登っているチームを見ました。)です。そのため競技中は、自分達がピークに対してどの程度手前にいるかを意識する必要があります。ぼくたちは高山に慣れているので、どこからアクセスすれば良いかわかりますが、後続の方はピークが近づいてきたら踏み跡に注意すればよいのだと思います。

次に後半戦です。CP6からCP10までの場所についてCP5からの方角と距離の情報だけを与えられたので、それぞれを自分で地図に書き込むことになります。回る順番は自由で、リフトを1回だけ使うことが許されています。基本的にリフトを有効に使い、一番高いところから下り基調にルートを設定します。すると、山に向かって一番右側のリフトで上がり、反時計回りでCPを取りながらゴールに向かうのが最も合理的です(正確に言うと、標高の高いCPから低いCPへを優先したので、若干時計回りになった箇所がありました)。

この地図上でCPの位置を特定すること、回るルートを決めることをいかに正確に短時間でこなすかも重要なポイントでしょう。トライアスロンでトランジット時間を短くするのと同じです。

こうして、ほぼノントラブルで全てのCPを取りました。結果的に2位に1時間近い差をつけました(着順ではオープン参加の半田さんがぼくたちに約1分遅れの2番手)が、走力ではそこまでの差はありませんでした。競技中に2位3位チームとすれ違い、逆回りをしていたのでロスがあったものと思います。作戦が功を奏したのだと思います。